

シンポジウム

パブリックアートと東京

都市の公共空間におかれたパブリックアートは、都市文化の中心でもあり、またその背景でもある。近代都市に欠かせない存在としてのパブリックアートが東京でいかなる姿を見せ、いかなる存在であるべきかを考える。

◆基調講演

北川フラム

(アートディレクター、(株)アートフロントギャラリー代表取締役会長、福武財団常任理事)
「社会的共通資本としてのアート」

◆講演

高田洋一 (彫刻家、美術家)

「パブリックアートの制作現場から一見えない風を可視化する」

藤井匡 (東京造形大学准教授、美術評論家)

「パブリックアートのつくる公共性」

荒川裕子 (法政大学キャリアデザイン学部教授)

「パブリックアートの受容のありかたをめぐって」

パネリスト：岡村民夫 (法政大学国際文化学部教授)
岩佐明彦 (法政大学デザイン工学部教授)
岩井桃子 (キュレーター)

挨拶：横山泰子
(法政大学江戸東京研究センター長・法政大学理工学部教授)

司会：山本真鳥
(プロジェクトリーダー・法政大学経済学部教授)

2020年3月1日(日)

13:00～17:30

入場無料・事前申込不要

法政大学市ヶ谷キャンパス

富士見ゲート 2階

G201教室

主催：法政大学江戸東京研究センター「テクノロジーとアート」研究プロジェクト

EToS

江戸東京研究センター
Hosei University Research Center for
Edo-Tokyo Studies



法政大学
HOSEI University

【問合せ】

法政大学江戸東京研究センター
102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
Email: edotokyo-jimu@ml.hosei.ac.jp